

## 【作文の部】最優秀賞（国土交通大臣賞）

「土砂災害にあわないように」

愛媛県 愛南町立緑小学校 5年 <sup>なかすか</sup> <sup>たいが</sup>  
中須賀 大河

ぼくたち37名の緑小学校は、全員が「防災グリーン隊」の隊員です。「防災グリーン隊」は、地震や大雨による土砂災害等の学習を通して、防災・減災の力を養っています。まず、「まもりみるちゃん」という防災キャラクターを作りました。いろいろな防災グッズを身に付けたとてもかわいいキャラクターで、みんなの人気者です。「まもりみるちゃん」の安全シールも作り、学校内の安全な場所を探してはっています。

さて、今年の夏休みは雨が多く、いろいろなところで大水や土砂による災害が起きました。「平成26年8月豪雨」というそうです。2学期始業式の校長先生のお話で知りました。中でも広島市では、たくさんの家が土砂に飲み込まれ、70名以上の犠牲者が出ました。大雨のほか、家が建っている急傾斜地の地盤がくずれやすい土だったことも、大災害の原因だと知りました。

ぼくたちが住んでいる緑地域は、中心部に僧都川が流れる山間部に位置していて、ぼくが気になる傾斜地が多くあります。今、総合的な学習の時間では、防災マップづくりに取り組んでいます。今年は、地震や大雨によって土砂くずれが起こりそうな危険か所を調べてのせることになりました。

先生から見せていただいた資料を調べると、ぼくらの地区にもレッドゾーンが7か所あることが分かりました。そして、その周辺にはイエローゾーンが広がっています。ぼくは、とてもおどろきました。もし、ここに1時間に100ミリ以上の雨が降り続いたら、広島の土砂災害と同じことが起こりかねません。広い範囲を飲み込むような土砂災害が起こると想像するだけで、おそろしくておそろしくてふるえてしまいます。だから、緑地域の方々にもちゃんと知っておいてほしいと思います。身を守るための心構えができるからです。

急傾斜地では、これまで全く何も起こっていないところの方がかえって危険な場合があることを聞きました。それは、ずっと耐え続けた地盤が、これまでになかった豪雨や大地震でゆるんで、一気にくずれてしまうのだそうです。だからこそぼくは、土砂災害の危険性が予想されているレッドゾーンやイエローゾーンを防災マップにしっかりとのせて、緑地域のみんなに知らせたいと思っています。

最近では、温暖化が進み、ゲリラ豪雨が多くなっていることも要注意です。「防災グリーン隊」では、ぼくたち5年生が今年から雨量観測を始めました。(6年生は地震観測を行っています。)運動場のすみに置いている雨量観測計は、雨量がデジタルの数値で表示されるので、とても分かりやすく便利です。ぼくたちは、手作りのペットボトル雨量計でも調べています。これまでに一番多く降った雨は1時間に11.7ミリで、その夜は大雨けい報が出ました。1時間に20ミリ以上、1日に100ミリ以上の雨が降ると土砂災害の危険があるそうです。夏休みには、ペットボトル雨量計を持ち帰り、庭に設置しました。でも、夜寝ている間に雨が降ったり、うっかりして見なかったりして、うまくいかず、とても残念でした。2学期の学校での雨量観測では、しっかりやろうと思います。

日本全国のいろいろなところでしん水や土砂くずれなどの災害を起こしているゲリラ豪雨は、範囲が狭いので、気象観測所もなかなか分かりにくいそうです。だから、ぼくたちは雨量観測をして、いざというときに生かすことができたらいいなと思います。

津波の心配はないと言われている緑地域ですが、大地震や大雨による土砂災害はとても心配です。今年も砂防学習会を行い、家の裏山の土砂災害防止の様子について現地で学習しました。そして、自分の命は自分で守ること、家族やみんなの命も守れる人になることをみんなで確認し合いました。

## 【作文の部】最優秀賞（国土交通大臣賞）

「土砂災害の報道を通して」

福島県 南相馬市立原町第二中学校 1年 宮原 由気人

「ほら、サラサラして握っても固くならないだろう。これが『まさ土』だよ。」と、父が見せてくれたのは不思議な土だった。水を含むとサラサラになり、水が抜けると固くなる。砂浜でトンネルを作って遊んだ時は、砂に水をかけると固まったのに、逆になるものもあることを初めて知った。

「この土がある所に大雨が降ると、崩れやすくなる。特に、阿武隈山系には花崗岩が風化してできた『まさ土』が多いから、土砂崩れしやすい所がたくさんあるんだよ。」そう父は教えてくれた。

今年の夏も、台風や大雨でたくさんの被害が出た。特に、広島市で起きた土砂崩れでは、たくさんの人が亡くなったり、家が土砂に押し流されてつぶされたりするなどの大きな被害が出た。そのニュースを見ながら、僕はあらためて土砂災害の恐ろしさを知った。

僕が住んでいる南相馬市でも、8月1日に1時間に100ミリを観測する雨が降った。それまで晴れていた空が急に曇り、突然雷が鳴ったかと思うと、ポツポツという音と共に降ってきた大粒の雨。前が見えなくなる程のどしゃぶりだった。僕は弟と一緒に家にいたが、このまま降り続いたらどうなるのだろうと不安になった。

震災以降、地震や津波などへの対策は、学校の避難訓練などで教わっている。だから、地震が起きてからの行動や避難する場所などの心構えはできていると思っていた。しかし、ゲリラ豪雨や土砂災害などのニュースを見ているうちに、こうした災害への対処は、よくわかっていないことに気づかされた。もし、学校から帰る途中でゲリラ豪雨のような激しい雨にあったら、どうすればいいのか。土砂崩れが起きそうな時は、どの道を通して、どこに避難したらいいのか。

広島市の災害の後、新聞には災害に対処するための様々な情報が書かれていた。そこから、局地的大雨の実況と予測が「ナウキャスト」でわかること、インターネットで「土砂災害危険箇所」を検索すると各県の情報がわかることを知った。福島県内の土砂災害危険箇所は、8,689カ所に上ると書いてあったので、早速インターネットで調べてみた。すると、土石流や地すべり、急傾斜の危険箇所について地図に色別で載っていた。僕の住宅周辺や通っている中学校、登下校の道は、危険を示す色ではなかったので安心した。

ところが、広島で起きた災害現場の多くが、土砂災害警戒区域に指定されていなかったという報道を聞いて、僕はびっくりした。広島市だけではない。土砂災害の恐れがあるのに、警戒区域の指定がされていない所が日本全国のあちこちにあるというのだ。それを知って、僕は自分の住む所は本当に大丈夫なのだろうかと思った。危険箇所の情報がなければ、避難方法を考えることはとても難しくなる。そこに住む人が安全な場所だと思いこんでいたら、避難勧告が出ても動かない人も出るだろう。それなのになぜ、警戒区域に指定されていないのだろう。調査中だったなど理由はいくつかあるそうだが、その中で僕が気になったのは「地価が下がるので危険区域に指定されたくない、という人がいるから」というものだ。「危ない場所だと言われると、宅地開発ができなくなったり、土地の価値が下がったりする。観光地だとイメージが悪くなって、観光客が減る。だから、警戒区域に指定しようとしても反対する人がいるんだよ。」と父が教えてくれた。住民の反対があると、危険箇所に指定できない場合があるそうだ。自分の命の方が大切だと思うのに、どうして反対する人がいるのか僕にはわからない。しかし、今回の災害によって、「土砂災害防止法」が改正され、警戒区域の指定がしやすくなる、と聞いて僕はほっとした。

自然災害はいつ起こるかわからない。また、土砂災害危険箇所の指定がない所でも、実は危険な場所がある。広島市の土砂災害は決して他人事ではないのだ。自分が住んでいる所にもっと関心をもち、もし自分だったらどうするかということをもっと考えていかなければならないと思った。ナウキャスト、土砂災害危険箇所の情報、2015年から導入される予定の電子防災情報など、自分を守るために使える情報はたくさんある。大雨の時、家にいていいのか、避難しなければならないのか、どこにどうやって避難すればいいのか。気象庁や市から出される警報だけに頼るのではなく、自分で考えて行動することが大切なのだ。僕は土砂災害の報道を通して、そのことに気づくことができた。自分や家族の命を守り、危険を乗り切っていくために、どのように行動すればいいかを、これからは、家族と一緒にもっとしっかりと考えていこう。